第１回　釈迦堂川流域水害対策協議会　議事概要

日　　時：令和７年８月４日　14時00分～15時10分

場　　所：須賀川市民交流センター　tette たいまつホール

出 席 者：福島県知事（代理:土木部参事)、白河市長（代理:建設部長)、須賀川市長、鏡石町長、天栄村長、西郷村長（代理:建設課長)、泉崎村長、矢吹町長、福島地方気象台長、東北農政局農村振興部長（代理:地方参事官)、福島森林管理署白河支署長、日本大学工学部土木工学科朝岡教授、福島大学共生システム理工学類川越教授、日本大学工学部建築学科市岡専任講師、東北地方整備局長（代理:流域治水推進室長）

報道機関：福島放送、福島建設工業新聞社、阿武隈時報社、読売新聞社、福島民報社、マメタイムス社、福島民友社

議事次第：

1. 開会
2. 挨拶：国土交通省　東北地方整備局　流域治水推進室長（河川調査官）
   釈迦堂川流域水害対策協議会　座長
3. 議事
   (1)　流域水害対策計画について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・【資料1】
   (2)　浸水被害対策について（イメージ）　・・・・・・・・・・・・・・・【資料2】
   (3)　今後のスケジュールについて・・・・・・・・・・・・・・・・・・・【資料3】
4. 閉会：福島県　土木部参事

◆　第一回流域水害対策協議会について

＜　東北地方整備局　＞

・改正となった特定都市河川指定法の枠組みを活用し、流域治水の取組みを推進するため、令和 6 年 3 月に釈迦堂川等が特定都市河川指定に指定され、流域水害対策計画協議会が令和 6 年 5 月 31 日に発足された。

・協議会では、各種対策の拠り所となる流域水害対策計画の策定に向けて、流域の特性を踏まえながら、被害軽減に向けた効果的な対策内容を関係機関の皆様と協議していきたい。

＜　座長　＞

・流域水害対策協議会では流域水害対策計画の策定を目的としており、本日は、主に計画期間と対象降雨について協議を行いたい。

・釈迦堂川は、洪水時には阿武隈川のバックウォーターの影響を受けやすい特徴がある。そのため、阿武隈川の整備も踏まえて、釈迦堂川の流域水害対策計画を検討していく必要がある。

・気候変動への影響に適応しながら、釈迦堂川にふさわしい流域水害対策計画を共に考えて参りたい。

◆　議事に対する委員からの意見

（1）流域水害対策計画について

＜　矢吹町　蛭田町長　＞

・阿武隈川と釈迦堂川の合流部におけるバックウォーターの話があったが、上流遊水地群が整備されることでどの程度緩和されるかといった検討はされているのか。

＜　事務局　＞

・実際にどの程度効果があるのかというのは資料 2 で説明させていただければと思うが、上流遊水地群の整備によって阿武隈川の水位が下がるため、バックウォーターの影響が緩和される計画となっている。

＜　日本大学　朝岡教授　＞

・p11 について、総雨量は③のケースが大きいが、浸水面積は②のケースが大きい結果となっている。この点について補足いただきたい。

＜　事務局　＞

・雨量の分布に着目すると、総雨量は③のケースが大きいが、最大時間雨量は②のケースが大きい。③のケースでは、②のケースに比べて最大雨量は小さいが、長時間に渡って降るため総雨量が大きくなる。②のケースでは、総雨量は③のケースより小さいが、短時間で集中的に降るため、ピーク流量が大きくなり、浸水面積が大きくなる。

(2) 浸水被害対策について（イメージ）

＜　矢吹町　蛭田町長　＞

・先ほどの質問とも関連するが、規模の大きい洪水に対して上流遊水地群でどのように洪水をコントロールするのかという点が大事なテーマである。様々な雨量や流量に対してシミュレーションを行っていただきたい。

・下流の負荷の軽減のために、洪水のピークをずらすという戦術をそれぞれに持っていただきたい。

＜　事務局　＞

・これまでに阿武隈川で代表的な被害をもたらした洪水に対して検証を行っている。そういった結果を踏まえながら、また、流域のみなさんの意見を聞きながら計画を策定して参りたい。

＜　天栄村　添田村長　＞

・上流域の対策として、ため池の活用を浚渫等の整備を行いながら考えていきたい。その他にも、ため池に該当しない未利用地もある。今後、このような土地を活用していくにあたって、財政措置等あれば教えていただきたい。

・同様に、田んぼダムについても、ピークをずらすという点を上流域の市町村として理解をしている。一方、取組を推進するにあたって財政措置等あれば教えていただきたい。

＜　事務局　＞

・ため池の活用について、一定の予算の中で補助を行う取り組みがある。そのような取り組みを今後協議させていただければと考える。

・田んぼダムについても同様の予算措置があるので、そういった取り組みを説明させていただきながら進めさせていただければと考える。

＜　日本大学　市岡専任講師　＞

・過去の水害に基づく分析を行っているが、実際に雨が降った時に、広域な流域内のどこで何をどう対応したら良いのかを瞬時に判断することは難しいと思われる。災害時にどのように連絡体制をとっていくのか、連携について強化いただければと考える。

＜　事務局　＞

・国や県が主体となって洪水予報という形で水位の状況等の情報を提示している状況である。提示された水位に対して樋門・樋管等をどのように操作していくのかという点を考えていく必要がある。

・ため池の活用については、洪水時ではなく、大雨が予測される数日前に、ため池の容量

を空ける操作を、管理者を決めたうえで行っていただくことが重要となる。流域水害対策計画を策定するにあたって、操作の方法等も考えながら進めて参りたい。

(3) 今後のスケジュール

＜　事務局　＞

・本日は第 1 回流域水害対策協議会という形で、主に「計画期間」と「計画対象降雨」等について議論させていただいた。

・次回は協議会の前に実務者会議という形で、第 2 回実務者会議を 11 月下旬に開催したいと考えている。そこでは、取組の内容と素案について議論させていただきたい。実務者会議を経て、第 2 回協議会を開催させていただきたい。

◆　閉会

＜　福島県　野地土木部参事　＞

・本日頂いたご意見を活かして釈迦堂川流域水害対策計画を策定していきたいと思うので、引き続きよろしくお願いしたい。